

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大 学 名	法政大学
整 理 番 号	B17
構 想 名	課題解決先進国日本からサステイナブル社会を構想するグローバル大学の創成

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) B	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、日本発の「サステイナブル社会」の実現に貢献するグローバル大学の創成を目指し、教育、研究、高大連携、社会人教育、体制構築の5つの目的をテーマに、設定した目標を全学的かつ包括的に推進する取組である。</p> <p>構想時の計画に沿って取組を実施し、総長のリーダーシップによるガバナンス改革が着実に進められている。また、本事業終了後を見据えた体制整備が進められており、今後の取組の継続性にも期待が持てる。特に、様々な形で学生がサステイナブル社会について考えるための教育プログラムを全学的に展開している点は、大規模な総合大学としての特性を十分に活かしたものとして評価出来る。</p> <p>一方で、全学共通プログラムとして実施予定の「課題解決型フィールドワーク」は、魅力的な内容ではあるものの、その規模や実施地等をより明確にすることが必要である。特に、より多くの学生に参加を促すための方策が具体的でないことから、今後の対応が望まれる。</p> <p>目標の達成状況に関しては、全体として十分とは言えず、全学生への浸透を見据え、一層の改善と努力が必要である。外国人留学生数については、本事業の採択大学として過大な目標設定とは言えないレベルであるにも関わらず、受入れ体制の整備や数値目標達成の進捗が遅れており、速やかな改善が望まれる。留学支援体制では、日本人学生の留学に対するインセンティブの強化に加え、学生サポートや危機管理対策の強化等の適切な取組が成されているものと判断する。外国人留学生に対しても、生活サポート面の充実が図られ、キャンパス近隣住民との交流も含めた魅力ある環境作りが進められている点も評価出来る。今後、これらの取組が派遣・受入学生数の増加に繋がる施策に結びついていくことが望まれる。また、外国語による海外の大学との同時遠隔授業については、アクティブ・ラーニングを含む同時遠隔配信での先進的モデルとなることを期待したい。</p> <p>本構想の持つ体系化された総合力を発揮していくためには、外国人留学生の増加や国内外の学生協働プログラムの拡充が極めて重要な要素となる。そのための環境整備を優先的に進め、現在検討中のプログラムを含めた多くの取組が着実に進展することを期待する。</p>	